

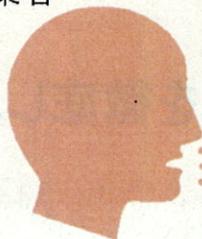
栄学区防災講習会

指定避難所における感染症対策講座

中保健センター 保健師
飯野 明日香

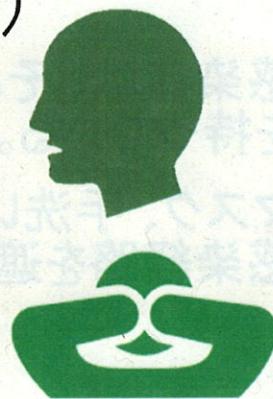
感染経路 (どうやって感染するか)

感染者



飛沫感染

接触感染



2つの経路が一般的とされる。

飛沫感染：感染者の飛沫と共に排出されたウイルスを吸入する。
(マスクなしで咳やくしゃみをあびる、会話で唾が飛ぶなど)

接触感染：環境表面のウイルスに触れ、その後に粘膜を触る。
(ウイルスのついた手で目をこする、鼻や口を触るなど)

感染を予防するには



①マスク



②手洗い・アルコール



③換気

マスク: 吸入する飛沫量を減らす。

手洗い: 手についたウイルスを洗い流す。

アルコール消毒: 手についたウイルスの感染力をなくす。

換気: 大気中のウイルスが分散する。

電通ダイバーシティラボ「見やすさプロジェクト」

小まとめ

- 感染症は、それぞれ感染させるための「感染経路」を持っている。
- マスク、手洗い・アルコール消毒、換気を徹底し、感染経路を遮断する。



日頃の感染予防について学んだところで、
次スライドより、熱や咳が出た人が避難所内にいる場合に
どのようにしていくべきか学びましょう。

ゾーニングとは

Aゾーン・Bゾーン
熱や咳のある人



Cゾーン

物資の受渡や防護具着脱を行う



Dゾーン
通常のエリア



「隔離する」ことを専門用語でゾーニングという。居住する区域を物理的にわけることで感染拡大を防ぐ狙いがある。それぞれの区域(=ゾーン)について理解を深めることで、有効なゾーニングを行うことができる。

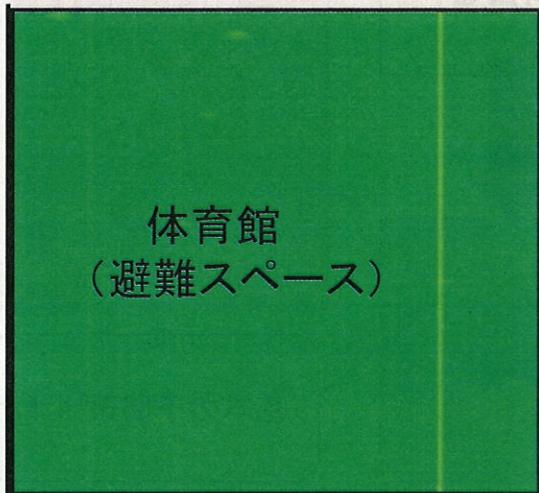
ゾーニングをしたときの例。

A・Bゾーンを別の校舎にすることで、廊下をCゾーンに利用でき、Dゾーン(体育館)での生活上の動線も交わらない。

A・Bゾーンの個室確保は難しくとも、最低限このゾーニングは行いたい。

最低限これだけは死守

有症状者(A・Bゾーン)と無症状者(Dゾーン)をわける

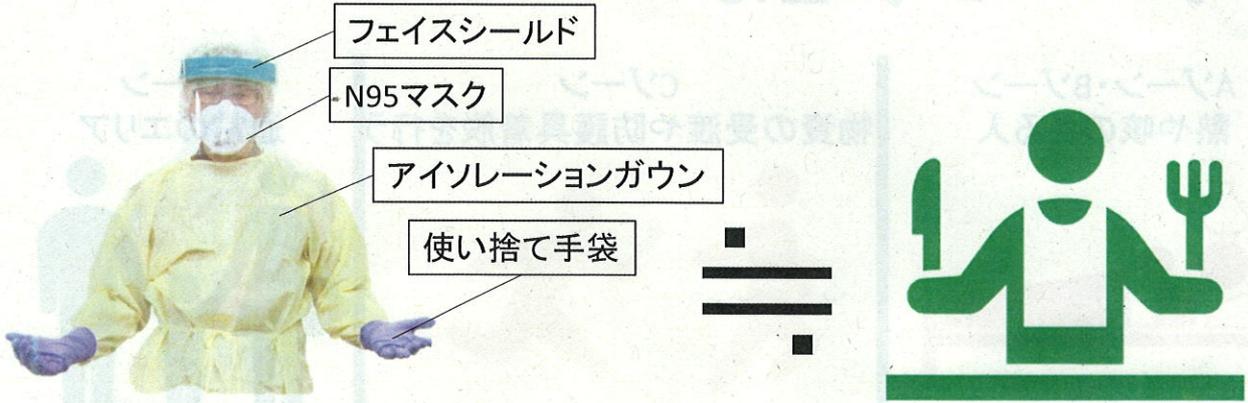


東校舎



〇〇小学校
略図

個人防護具



発熱・咳があっても全員がコロナ感染症患者ではない。
同じ防護具のまま複数人に接すると、感染を拡大してしまう。
「清潔な手術着」ではなく「飲食店の使い捨てエプロン」と考え、
1人の発症者に接するごとにすべて着替えるのが理想。

➡ 毎回すべての個人防護具を着用するのは困難。
次のページに場面ごとの最低限着用しなければならない防護具を示します。

防護具最低限これだけは死守

完全防御！！

